

農事功績者

キヤベツ収穫機で受章

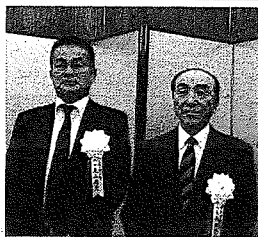
ヤンマーアグリとオサダ農機

(公社)大日本農会(吉田岳志会長)は21日、令和元年度農事功績者表彰式を東京都港区の石垣記念ホールで開催した。

冒頭、吉田会長が「103回目の表彰式となるが、受章者は1万3800人を超えた。その功績は本会の記録に永くその栄誉をとどめている」と

挨拶。同会の総裁である秋篠宮皇嗣殿下は「農業と農村は国民生活の基盤である食料を生産するだけでなく多面的な役割を果たすが、我が国の食料自給率は主要先進国の中で最低水準となり、農業従事者の高齢化、後継者不足、耕作放棄地の増加など課題は山積している。また近年は自然災害が多発し、農作物や施設

に大きな被害をもたらしている。このような状況の中、表彰事業が農業に携わる方にとり、一層の励みになるひとつの契機となれば幸い」と述べた。また、来賓からは江藤拓農林水産大臣が挨拶した。今回受章したのは紫紅綬名譽章1人、紫白綬有功章4人、緑白綬有功章58人、紅白綬有功章5人の計68人。農業技術開発功勞者では、キヤベツ収穫機開発発案者が名譽賞状を受章し、ヤンマーアグリ(株)の丸山高史海外事業部開発部長、オサダ農



ヤンマーアグリ(株)の丸山部長とオサダ農機の長田会長

功勞者では、キヤベツ収穫機開発発案者が名譽賞状を受章し、ヤンマーアグリ(株)の丸山高史海外事業部開発部長、オサダ農

機(株)の長田秀治代表取締役会長が表彰された。キヤベツ収穫機は、刈取、選別調製、大型コンテナへの収納を機上で一貫してでき、収穫に要する労働時間の大幅削減、軽労化などを表現した。オサダ農機の鎌田和晃社長は「名譽ある賞をいただき身に余る光栄。今後他の作物に範囲を広げることなどで農業発展に尽くしたい」と話した。